



# 木 木 木

千葉県TEACCHプログラム研究会  
2023年5月14日(日)第120号

「森」字・佐々木正美  
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557

ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

## 表情豊かなコミュニケーションを紡ぐTEACCHプログラム研究会

千葉県TEACCHプログラム研究会

代表 堀子 榮

桜前線も北海道を北上中。千葉県においては、ハナミズキ、ツツジ、ボタン、フジ等、本来であればGWが見頃を迎えるはずの春の花々が4月20日過ぎの現在、咲き誇っています。それらを追いかけるように新緑のグラデーションが美しさを増し、通勤途上の私たちの心を癒してくれています。

皆様方は、2023年度はどのようなスタートを切りましたでしょうか。

さて、コロナ禍の3年間が過ぎようとしております。歴史を遡ること約100年前。スペイン風邪(H1N1新型インフルエンザウイルス)は、1918年から1920年にかけて流行し、世界の人口(当時18億人)の半数から3分の1が感染し、全世界で5000万人以上の方が死亡したとされています。スペイン風邪の流行は第1次世界大戦の後半と重なっており、この大戦による戦死者が1000万人だったことを考えると、実にその5倍の人々がスペイン風邪で命を落としたこととなります。スペイン風邪は、患者1人が2~3人にうつす感染力があったとされ、パンデミックとなって世界で多数の死者を出したことなど、今回の新型コロナウイルス感染症とよく似ています。その後、社会はどうなったのか。歴史を振り返って見ることは、歴史に学ぶことは大事でしょう。最近の国際情勢は、歴史が繰り返されるかのような情勢にも見えます。私たちは叡智により、一人一人の本来あるべき良い状態(Well-Being)を求めていきたいものです。さて、新しい生活様式に心も体も馴染んでいるところではありますが、私たちは次の生活様式にアップグレードをすることが求められています。以前に戻るのではなく、コロナ禍において学んだ、本当に大事なことは何かを常に考える生活を続けることです。TEACCHプログラム研究会においても、自閉症の子どもたちにとっても生活の質をさらに豊かにできるように追究していきたいと思っております。コロナ禍の中でマスク生活が続きました。お互いの表情を確認することもできず必要最小限の情報の中での生活が強いられてきました。これからは表情を遮っていたマスクも必要なくなる予定です。みなさんの豊かな表情を確認しながらコミュニケーションができるようになります。これまで以上に豊かな心を培い、思いっきり表情豊かなコミュニケーションを楽しみましょう。TEACCHプログラム研究会はその一助になれるように努めたいと思っております。本年度は、昨年度に引き続き教育会館大ホールを使用しての総会を開催します。これも、千葉県の福祉関係、教育関係の皆様方からの多大なるご支援・ご協力及び会員の皆様のお力添えによるものと心より感謝申し上げます。

最後になりますが、表情豊かなコミュニケーションの輪を皆様のお力で広げていきましょう。障害のある人もない人も過ごしやすい一年になりますことを祈念し、ご挨拶に代えさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 今回のセミナー講師「宇野 洋太 先生」の関連著書御紹介



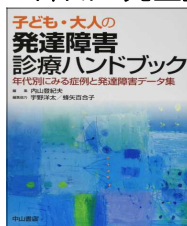
すずちゃんのおうみそ

岩崎書店ブック

著：竹山美奈子

監修：宇野洋太

イラスト：三木葉苗



大人の発達障害診断ハンドブック

中山書店

編集：内山登紀夫

編集協力：宇野洋太、蜂矢百合子

## 令和4年度第6回セミナー（実践報告会）

### 「コロナ禍における特別支援学級での支援の取り組み」

市原市立菊間小学校 鏡 良幸 氏

所属校の特別支援学級での実践をお話いただきました。在籍するお子さんへの支援のポイントを「安心できる環境づくり」「学習へ向かう姿勢づくり」「読み書きの苦手さへのアプローチ」「自己肯定感、レジリエンスを高める取り組み」として、具体的な例を挙げてお話いただきました。また、特別支援教育コーディネーターも務められており、先生御自身で作成された「支援内容検討ガイド」を活用したお子さんへの支援方法の検討などについて、校外外の先生方へ情報発信していらっしゃる実践も伺うことができました。

### 「根拠ある支援の組み立て」

社会福祉法人菜の花会ネクスト名木小 鶴沢 敦史 氏

利用者の方の課題となっている問題行動についての実践をお話いただきました。スキャタープロット・ABC分析の活用や御本人のアセスメントを通じた「発生する状況や強み」の整理、支援目標の設定や支援の実際についてお話いただきました。特性と環境の分析には冰山モデルを活用したりスケジュールの提示では再々構造化したりするなど、丁寧な見取りと支援方法の見直しの大切さについて、改めて学びました。支援の結果、利用者の方の課題行動が軽減されたとのこと、素晴らしい実践発表をしていただきました。

### 「新型コロナウイルスの家庭への影響」

千葉県自閉症協会 理事 朝倉 潤一 氏

令和3年12月に千葉県自閉症協会所属の会員の方を対象に、「新型コロナウイルス感染症拡大の影響について」のアンケート調査を実施された結果について、お話いただきました。日常生活で困った点としては、「予定変更への対応」「行動制限」「医療関係」「マスクの着用」が挙げられ、学校や施設等の対応で困った点としては、休校やクラスター発生による「自宅待機」「行事の中止、縮小」が挙げられました。御本人はもとより、保護者の方の御負担もうかがい知ることができた発表でした。この発表につきましては、「みちNo.98」千葉県自閉症協会HPに掲載されています。

令和5年度 TEACCHプログラム研究会 第2回連続セミナーのお知らせ

日 時：令和5年7月1日（土）14：00～16：30（13：30受付開始）

会 場：千葉県教育会館303会議室

演 題：「構造化を用いた成人期の支援」（仮題）

講 師：松島 祐治 氏（社会福祉法人 横浜やまびこの里）

※オンデマンド動画配信期間：令和5年7月7日（金）～7月21日（金）

申込締切日：令和5年6月26日（月）

（編集後記）先週8日（月）、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となりました。まだ終息には至らないものの、手洗いや換気などの基本的な感染防止対策は引き続き実施しながら、コロナ前の生活へ…との方向に進んでいます。

千葉県TEACCHプログラム研究会では、コロナ禍3年間の実績を踏まえ、令和5年の今年度も対面形式とオンデマンド動画配信形式のハイブリッド研修で実施します。研修会場にお越しの方におかれましては、マスクの着用は任意とします。また、入場に係る検温や手指消毒につきましても任意とします。

自閉症のある方にとっては、この3年間でようやく定着した「コロナ禍の生活」から、また変化を求められることとなります。少しでも、スムーズな移行ができることを切に祈ります。

今年度も素敵な講師をお迎えして、自閉症のある方々への適切な支援ができるよう、皆様とともに勉強していきたいと考えます。よろしく申し上げます。（山中）